

2014年3月28日

国土交通省中部地方整備局局长
八鍬 隆 様

設楽ダムの建設中止を求める会
代表 市野 和夫
事務局 豊橋市御園町 1 - 3
<http://no-dam.net/>

設楽ダム予定地周辺の地質地盤についての公開質問状

ご承知のように、設楽ダムに関する地質調査は昭和53年から、主にアイドルエンジニアリング(株)によって実施され、各年度ごとの「設楽ダム地質調査検討業務委託報告書」にまとめられています。平成4年度(1992年度)の報告書には、貯水池周辺の地質について以下のように懸案事項をあげています。

《ダムサイトの懸案事項》

ダムサイト近傍地域の地質および地質構造の把握。

特に、ダムサイトに向かう断層の性状と連続性およびその位置について。

下流、中流、上流の3案のダムサイト付近の岩盤・緩み状況ならびに風化状況・被覆状況の把握。

松戸部落および松戸部落から西方に分布する泥質片麻岩分布域に数カ所認められる二重山稜地形(凹状地形部)の成因の把握。

ダムサイト中流案右岸部の松戸部落付近には東西性の凹状地形部が発達しており、二重山稜を形成している。

これまでの概略調査によれば、その成因は、大きく2つの考え方がある。

- ・基盤岩の東西性の小規模凹部に第三紀層が堆積したのち、浸食され易い第三紀層が選択的に浸食された結果生じた地形とする考え方。

この場合も基盤岩の凹部の成因を構造的な陥没盆地とするものと、浸食によるものがある。

- ・一方この二重山稜地形が大規模な山塊地すべりに起因するものであり、右岸の一部が下流川側に滑り落ちて形成されたとする考え方。

電源開発(株)の既往資料によれば、中流案右岸側山腹は緩みが著しいとされており、緩みの把握と併せて二重山稜の成因を明らかにし、ダムサイトへの影響を検討する必要がある。

また、松戸部落から西方に発達する泥質片麻岩分布域の尾根部には同様の二重山稜が数カ所に認められる。これらの箇所についても概査を実施し広い範囲でその成因を把握し検討する必要がある。

ダムサイト上流左岸高位標高に位置する第三紀層(礫岩層)と先第三紀層の境界分布位置の把握。

ダムサイト上流左岸部には第三紀層が発達しており、その分布標高は設楽大橋に向かい標高を減じ、河床より約70m程度まで下がってくる。一部

右岸側では河床部に分布している。

第三紀層下限部には礫岩層が発達しており、この礫岩層と湛水面との関係や礫岩層の透水性などによっては、貯水池外およびダムサイト下流への漏水が懸念される。本調査では立ち入りの制約があり、検討に必要な資料に乏しい。したがって、その分布状況と性状を把握する必要がある。

《原石山の懸案事項》(省略)

《貯水池の懸案事項》

ダムサイトの懸案事項 同様、貯水池左岸には第三紀層が発達している。その分布によっては貯水池外への漏水が懸念されるため、その分布を明らかにする必要がある。

地すべり・崩壊地、特に重要度がBランクのA - 1、A - 2地点の地質調査とその評価。

(平成4年度 設楽ダム地質調査検討業務委託報告書、78～81ページ)

上記の懸案事項で述べているように、断層の分布やその特徴、岩盤緩みと地すべりの実態把握、松戸地区及びその西方延長に認められる二重稜線地形の成因、貯水池外への漏水をもたらす基盤岩と第三紀層の境界(不整合)及び断層の実態把握が、地質及び地質構造の面から解明すべき重要課題といえます。その後、平成12年度(2000年度)の報告書で地質調査のまとめがなされ、それから後は、主としてダムサイト選定のための調査に移行していますが、平成4年度の懸案事項がほとんど解決されないままダム建設を前提とした各種の調査が継続されてきました。

【質問1】 中部地方整備局長は、上記平成4年度設楽ダム地質調査報告書が述べている「ダムサイトの懸案事項」の存在を認めますか？

【質問2】 上記の懸案事項のうち、これまでの調査により、問題が解消した項目があれば、その項目を示して、どのように解消したのか説明してください。

【質問3】 上記の懸案事項のうち、現状で解決していない項目を全て列挙し、具体的な問題の内容について、説明してください。

【質問4】 上記平成4年度報告書が述べている問題以外に、懸案となっている地盤・地質についての問題があれば、説明してください。

【質問5】 中部地方整備局は、設楽ダム建設事業の再検証で、複数案のうち、設楽ダムの建設(現行)案が最も安価との結論をまとめていますが、地質地盤の状況によっては、ダム建設の費用がかさみ、他の案に比べて割高になる可能性があることを認めますか？

以上5点の質問について、2週間以内、遅くも平成26年4月末までに文書にて、当会の事務局まで回答をお願いします。